

## 平成21年度第7回 東三河ふるさと公園自然観察会記録

<b>1. 事業名</b>	東三河ふるさと公園 第43回自然観察会
<b>2. 日時</b>	平成21年10月18日(日) 晴れ 09:300~11:40
<b>3. 場所</b>	東三河ふるさと公園 豊川市御油町
<b>4. 参加者</b>	柴田、高橋、高林、中島(国)、中島(芳)、夏目、林、星野(京)、星野(芳) 9名
<b>5. 一般参加者</b>	31名
<b>6. 観察のコンセプト</b>	<p>「渡りをする蝶 アサギマダラ」</p> <p>渡りをする蝶、春には涼しい地方へ北上し、秋には南下するアサギマダラ、この不思議な蝶を観察し、マーキング作業を行い放蝶までを観察する。</p> <p>・自然観察は、「目でみて、耳で音を聞き、鼻で臭いをかぎ、手で触れて、舌で味わう五感で観察しよう」</p>
<b>7. 観察行程</b>	<p>09:20: 会員集合 受付、放送その他の庶務は公園管理者が行う。</p> <p>09:30: 観察会開始 公園管理事務所長 挨拶 高橋 東三河自然観察会副会長挨拶</p> <p>09:35: 前月の宿題出会った「半色」について アサギマダラについて 移動する蝶アサギマダラの好きな植物はキジョラン(ガガイ科)、世代を交代しながら北上し、秋季には南下する。10月中旬より、愛知県地方で多く見られる。</p> <p>09:40: 森を見てみよう。18号台風で被害を受けた森の観察</p> <p>09:45: 野草園に向けて出発 (途中シナノガキ、コナラの倒木の観察)</p> <p>10:10: 野草園でアサギマダラの観察とマーキング作業(星野京子) マーキングの意義を説明し、この蝶が遠く何100kmと移動していることを説明、♂♀の見分け方、前翅長の計り方を説明し実際にマーキングする。</p> <p>10:50: マーキンキング、放蝶終了</p> <p>11:10: ロックガーデンまで登り、アサギマダラの吸蜜を観察 竹林を經由し管理事務所まで下る。(途中 ツルアリドウシの実を観察)</p> <p>11:35: アンケート</p> <p>11:40: 観察会解散</p> <p>11:50: 連絡及び反省会</p>
<b>8. 会員及び公園管理者から一言概要</b>	<p>・今年は、アサギマダラの飛来数減少に加え、18号台風でアサギマダラが吸蜜する花が被害を受けたことが重なり、本日は特にその数が少ない。このため、参加者が直接網で採集することができなかった。</p>
<b>9. 次回以降の観察会のテーマ</b>	<p>11月(44回): 秋の紅葉、森の輝き</p> <p>12月(45回): 生物の冬越し(植物等)</p> <p>1月(46回): 生物の冬越し(動物等)</p> <p>2月(47回): 公園内の石ころ</p> <p>3月(48回): 早春の生物</p>

## 10. アサギマダラのマーキングについて

### 1) アサギマダラのマーキング作業

- ・移動する蝶、世代を交代しながら北上する。産卵はキジョラン（ガガイモ科）やイケマの葉に産卵する。秋季になると南下する。10月ころ愛知県を通過する。移動のコースはほぼ、サシバの渡りのコースに重なるようです。オスは茶色、精ひょうを持ち雌をひきつける臭いを出す。
- ・アサギマダラが飛翔していたら、白い布を振り回すと近くへ寄ってくる。なぜかは不明だが・・・（たぶん白い布を振ることにより、ヒラヒラと仲間が飛んでいるように見えるのではないな？）

#### a. マーキングの記録方法

概要 : 年月日、時刻、天候、気温、場所、標高、何処にいたか、  
蝶本体 : 鮮度の状態（新・中・古）、前翅長、破損箇所の有無、オスメス別、交尾の有無、吸蜜植物、その他

マーキング : 三河、ふるさと公園、H18.10.15、Y・N 01  
(注1 ふるさと公園でマーキングした例)  
(注2 Y・N は標識実施者のイニシャル、No.  
は標識実施者の通番号)

- b. アサギマダラを捕獲したらマーキングを確認する。マーキングがされている場合、インターネットで検索すると、何処で、誰がマーキングしたか確認できる。マーキングされたアサギマダラを捕獲した場合は記録写真を撮り、各項目を記録し、再度マーキングして放蝶する。このことにより、何処を、どれだけ移動したのか確認できる大切なデータとなる。



マーキングの例

### 2) アサギマダラとはどんな蝶かな

タテハチョウ科・マダラチョウ亜科に分類される蝶で、ハネの模様が鮮やかで美しい大型の蝶で、長距離を移動する蝶として知られています。

成虫の前羽は50~60mm、翅の内側が白っぽく、黒い翅脈があり、白っぽい部分は半透明の水色で、リンブンが少ない、オスメスの区分は付けにくい、後翅の腹部先端付近に黒い斑点があるのが雄です。また、オスには腹部先端にフェロモンを分泌するヘアーペンシルと呼ばれる機関を備えています。

余り羽ばたかず、ふわふわと滑空するように飛ぶ。フジバカマ、ヒヨドリバナ、アザミに多く集まり、給蜜する。幼虫はカモメヅル、キジョランなどを食草とし卵も食性の葉の上に産みつけられる。

食草となるガガイモ科の植物は、どれも毒性の強いアルカロイドを含む。アサギマダラはこれを食し体内に蓄積するためアルカロイドを取り込み毒化し、敵から身を守っている。アサギマダラは幼虫、蛹成虫とも鮮やかな体色をしている。これは毒をもっていることを敵に知らせる警戒色となっている。

アサギマダラの成虫は1年のうち、日本本土と南西諸島、台湾の間を往復していることが知られています。ただし、北上する固体と、南下する固体は世代が変わっており同じ個体が移動するわけではありません。

移動の研究は、捕獲した成虫の羽の透明な部分に捕獲場所、年月日、連絡先、状態等を記録し、個体識別を行い、どれだけ飛んだか算出します。直線距離で1500km以上飛翔する例が挙げられています。この謎とロマンに満ちた蝶「アサギマダラ」をじっくり観察できた。



♂



♀



翅の縁が損傷した古い個体(左)と新個体(右)



交尾後の♀腹部

### 1 1. 観察できた植物

ガマズミの実、ゴンズイの実、アブラギリの実、ササクサ、チジミザサ、ナガバノアキノゲシ、ツクシハギ、アレチノヌスビトハギ、ヤクシソウ、ヒヨドリバナ、アメリカセンダングサ、コセンダングサ、メナモミ、コメナモミ、クサネム、ミゾソバ、スズカアザミ、ツリガネニンジン、キツネノゴマ

☆参加者から特別講義

ヌルデの実には毛がありこの毛の部分が塩辛いこのため「塩の木」と呼ぶ所もあるとのこと。山間部ではこの実の塩辛い所を利用する風習が昔はあったとのこと。

### 1 2. 確認できた野鳥類

ヒヨドリ、メジロ、コゲラ、エナガ、シジュウカラ、ハクセキレイ、ハシボソカラス、コジュケイ、トビ、モズの鳴き声

### 1 3. 見られた花、昆虫等



ミゾソバ



ヤクシソウ



ノコンギク



オナモミの実



スズカアザミ



ヒヨドリバナ



マイコアカネ



コノシメトンボ



ツماغロヒヨウモンチョウ♀

アサギマダラのマーキング



マーキング作業



マーキングの例



スガサミで吸蜜するアサギマダラ

14. 観察会風景



マーキング作業の前に、アサギマダラについての説明が行われた。



子供達も楽しくマーキング



放蝶するぞー



さー 飛んでけー

備 考

今回の観察会は、アサギマダラのマーキング作業を中心に専門店的な観察会を行った。